

■2018年の漢字

		漢字	選んだ理由
愛知淑徳大学教授 真田幸光氏		沌	来年も混乱が深まり、世の中の水は流れず、ふさがれる。淀んだ金融市場が堰きをきり洪水となる可能性もある。
クレディ・アグリコル証券会社 森田京平氏		政	2018年は内外の政治(米国の中間選挙、メキシコの大統領選挙、英国のEU離脱交渉の実質的な期限、日本の憲法改正と自民党総裁選など)や地政学リスクが大きな焦点となるため。
ソニーフィナンシャルHD 尾河眞樹氏		喜	来年もゴールドリックス=適温経済が続き、リスクオン、低ボラティリティが続くとみているため。市場参加者にとってはハッピーな市場が続くのではないかと。ただ、北朝鮮、欧州も含めて政治的な不透明感も続くため、常に警戒は必要。
第一生命経済研究所 永濱利廣氏		頂	再来年は米国経済も終盤に差し掛かり、五輪特需の勢いもピークアウトすることに加え、消費増税が控えていることから、来年が一旦の金融市場のモメンタムのピークとなりそう。
大和証券 木野内栄治氏		笑	相場格言「成笑い」。成年は翌年の亥年選挙(統一地方選と参院選が重なる年)を前に政策全開で、過去は必ず前年の高値を抜けた年回り。
大和証券 壁谷洋和氏		十	2008年のリーマンショックから丸10年。米国の景気拡大が10年目に突入する節目の年となり、これまで順調だった米経済やマーケットに変調が生じるかどうか焦点となるため。
日本総合研究所 湯元健治氏		弾	2018年は、様々なグローバルリスクを抱えつつも、内外のマクロ環境は順調であり、デフレ脱却が視野に入れば、相場に弾みがつく可能性逆に、米朝開戦リスクなどのリスクが現実化した場合には、下方にも弾みがついてしまうリスクも。
ニッセイ基礎研究所 井出眞吾氏		微笑	相場格言どおり「成笑う」となるが、大笑いではなく、微笑む程度の上昇。
BNPパリバ証券 中空麻奈氏		適	2018年はゴールドリックス相場になるとの予想がもっぱらと思います。適温相場から適を選びました。もっともこれを最後にだんだん適ではなくなると考えていますので、適温も最終局面だろうとは思いますが。
ブーク・ド・フルーレット 馬淵治好氏		温	世界的に、そこそこの景気回復、そこそこの金利動向、そこそこの株価推移(年初の下落より後は)。決して熱くないが、決して冷たくもない。中立よりはやや温かい。温い(ぬるい)のかもかもしれない。
法政大学大学院教授 真壁昭夫氏		滞	米国を中心に景気は徐々にピークに向かう可能性がある。それに伴い、構造改革は進みづらい。主要国の財政・金融政策が手詰まり状態となる中、社会全体の停滞懸念が高まる。
三井住友アセットマネジメント 市川雅浩氏		適	2018年も世界経済の緩やかな成長と緩和的な金融環境が併存し、熱(強気)過ぎず、冷た(弱気)過ぎない「適」温相場が続くと予想されるため。
UBS証券 青木大樹氏		代	2017年は中国経済や原油価格回復が世界経済を支えた1年であったが、2018年は中国経済の減速をブラジル・ロシア・インドをはじめとした他の新興国がオフセットする。 また、米国の企業投資もエネルギー関連から未来投資・省力化投資などの非エネルギー投資主体となるだろう。これまで低下し続けていたグローバルの金利情勢も、緩やかながらも明確に上昇基調に転じる。 一方、イタリア総選挙での政権交代や安倍総理に自民党総裁選挙における交代リスクや米国議会が上院・下院でねじれてしまうことなどがリスク要因。
楽天証券 土信田雅之氏		変	本能寺の変や紀尾井坂の変など、ガラリと世の中のムードが一転してしまう可能性もあり得る年になりそう。米国の中間選挙やロシア大統領選挙、国内でもポスト安倍をにらんだ次期総裁選などが控えているほか、中国の習近平政権も磐石と思われているが、まさかがあるかもしれない。地政学的情勢も引続き警戒が必要。国内外景気と企業業績で明かった2017年の流れがこのまま2018年も続くとは限らないと考えられ、注意が必要かと。